

平成26年度国立大雪青少年交流の家第1回施設業務運営委員会管理運営部会議事要旨

日時：平成26年5月26日（月）15：00～16：00

場所：国立大雪青少年交流の家本館1階第4研修室

運営委員出席者：山内委員，片岡委員，松本委員，西海委員，笠井委員長（オブザーバー）計5名

欠席：瀬川部会長 計1名

国立大雪青少年交流の家出席者：秋山管理係長，小川会計専門職，三田総務係員 計3名

（発言表示：●事務局，○部会長代理，□委員）

●開会宣言

資料確認，欠席委員報告，施設業務運営委員会委員及び事務局担当職員自己紹介。

●事務局

部会長欠席のため，山内委員が代理として議事進行する旨，承認を求める。

□委員

異議なし。

○部会長代理

山内委員の部会長代理進行について承認されたため，部会長代理による議事進行。

●事務局

資料説明。

<議題1>今年度の部会開催予定の確認

●事務局

管理運営部会委員の参画するワーキンググループに係る横断組織の位置付・検討事項，参画メンバー，開催予定について説明。

○部会長代理

事務局より説明のあった今年度の会議予定について，御意見・御質問をお願いしたい。

●事務局

リレーションシップ事業の当日運営等の参画について補足説明。

□委員

意見・質問なし。

○部会長代理

今年度は昨年以上に交流の家の管理運営に各委員参画をお願いしたいと考えている。

委員の皆さまにおかれては、本来業務等もありお忙しいと存じますが、新しい公共型の管理運営に協働していただくようお願いしたい。〈議題1：終了〉

<議題2>平成26年度審議事項予定

○部会長代理

昨年度は「優秀な非常勤職員人材の採用」「50周年記念事業の準備開始」について集中審議を行い一定の成果は出せたものと感じているが、一方、引き続き検討すべき課題が出てきているところ。

今年度の管理運営部会の検討事項及び方向性について事務局より説明してほしい。

●事務局

平成26年度の4つの検討事項「①優秀な非常勤職員人材の任用上の課題」「②50周年記念事業準備」「③自己収入の増加」「④施設整備の長期改修計画（施設マスタープラン）の策定」について説明。

① 優秀な非常勤職員人材の任用上の課題

平成25年度は1名7月～12月（6か月間）雇用し、一定の成果はあげられたが平成27年度からの新しい公共型の管理運営本格実施に向け、様々な課題（採用上の条件整備、人材確保、受入体制の整備）の問題点をクリアにし、制度上の整備を行い成果もあげたいと考える。

また、関連して平成25年度に検討事項となった「地域成人ボランティアの登用」についても検討を進めたい。

② 50周年記念事業準備

元々国の施設であるため、民間等からの寄附が難しいことから、まずは寄附を求める前に大雪を地域に知っていただき、地域から応援していただく気運を高めるためのイベントの仕掛けていかなければいけないと考える。

また、この動きと並行して、地域の関係機関へ出向いた際には広報活動を行うこと、地域の教育関係機関へ協力依頼及び道内有力企業へは寄附金及び広報活動を行うことは必要である。

寄附金の使途については昨年度当初の予定では炊事棟建設という話もあったが、実現が難しいことから青少年の健全育成のためのイベント実施に係る寄附金としてシフトするかといったところで進んでいるところ。

今年度、阿蘇青少年交流の家が50周年を迎えることから委員と事務局協働で、視察と運営支援を行う予定。

③ 自己収入の増加

50周年の記念事業を行うための協力依頼を行う上でも自助努力による収入増を図る必要があると考える。

プールの使用料の導入について検討していく。（導入する場合は平成27年度以降）

④ 施設整備の長期改修計画（施設マスタープラン）の策定

施設が老朽化してきていることから、施設改修状況をリスト化して改修計画を策定し、予算要求の一助とし、計画的な施設の維持保全していく必要があると考える。

○部会長代理

今年度の検討事項・目標などについて、事務局から説明があった。

今年度は新しい公共の試行 2 年目でもあり、平成 27 年度から本格実施となるため、具体的なアクションプランを立て実行に移すことで、本格実施に繋げること、併せて、成果を出すことで報告にまとめて「新しい公共」型の施設管理運営を普及していくことも求められる。

ぜひ、皆様から様々な発想で御意見をいただき実行に移していければと思う。

4つの議事について、どこからでも結構です。ご質問や意見などいただきたい。

□委員

50 周年記念事業の日程について教えてほしい。

●事務局

平成 28 年 10 月 16 日（日）の予定。

□委員

50 周年記念事業の総費用としてどれくらいを試算しているのか。

●事務局

現時点での総費用は未定。現在の予算として機構本部から配分される予定額は、概ね 150 万円程度であるが、案内状発送などの事務処理費用が対象である。その他は未定であることから今後の総予算の内訳（機構本部・寄附金・自己財源）など明確にしていく必要がある。

□委員

資料 4 の P2 で平成 26 年度の検討方向性でプールの使用料の導入とあるが、例えば使用料 100 円とした場合の収益はどれくらい見込まれるのか。

●事務局

年間使用者が約 1 万 2 千人。使用料 1 回 1 人 100 円とすれば約 120 万円。

なお、プール使用料は、プール維持の経費へ補填することを考えている。導入にあたっては、利用者数の減少とならないように納得いただける額にする必要がある。

□委員

50 周年記念事業で大雪として何をやりたいのか現時点で具体的なものはあるのか。

●事務局

昨年の段階では資料 7 に掲げている記念イベントなどを予定。

記念建物の建築については、現状では難しいと判断しているところであり開所記念日前後の一定期間において道内主要各地で青少年児童の育成に役立つ体験活動の記念イベントなどを行いたいと考えている。

また、青少年に夢を語れるような著名人から講演いただくことも考えている。

委員

イベントによる収入はあるのか。

●事務局

なし。

委員

記念祝賀会は交流の家食堂又は旭川市内ホテルとあるが会費制なのか。

●事務局

会費制で考えている。

委員

記念祝賀会を除くその他の分に対する費用をどのように集めるかということが 50 周年事業の審議の焦点になるという考えで良いか。

●事務局

はい。また、イベント部分についても改善意見等あれば御意見いただきたい。

○部会長代理

上川管内市町村教育長部会へ寄附金の説明があった際に、教育長部会では寄附金名目だと様々な障害があり、負担金となればそれなりの理由が必要になってくるところで終わっている。

独立行政法人となりながらも国立の施設のための建物を建てるための寄附となればやはり違和感があるところもあり、教育長部会としては受け入れがたいのが現状。

先ほど説明があったとおり複数回に分けたイベントを実施する方が納得はされやすいと感じる。

委員

優秀な非常勤職員の任用について平成 26 年度も任用予定はあるのか

●事務局

今年度は現時点では予定していない、昨年度の課題を整理し平成 27 年度の任用について検討中。

委員

平成 27 年度の任用について人件費はあるのか

●事務局

平成 25 年度については別途人件費の予算措置がされていたが、平成 27 年度は予算措置されないことから、所内予算を流用する必要があるが、超過勤務の削減などにより人件費を捻出することは可能と考えている。

□委員

昨年度の優秀な非常勤の雇用期間が7月から12月までの6か月間であったと思うが、この短期間で成果は得られるのか。それとも何か狙いがあるのか。この期間を設定しているのか。

●事務局

当初予定では7月から10月の繁忙期の利用団体プログラム作成や大雪看板事業でもある登山やハイキング活動の支援を目的として雇用したところである。

成果としては、ハイキングマップの作成やプログラムに掲載されているハイキングコースの看板整備や安全確保など一定成果を出せた。

課題としては繁忙期にその職員だけが特命事項のみをやってもらうことが難しく、日常的な部屋掃除などもやらなければならないなど、雇用側と採用された側の思惑がずれたことなどがあるため、そうした部分を整理（解決）していかなければならない。

また、パソコンや机などのインフラ整備の課題もある。

□委員

50周年記念事業について実行委員会形式とするのか、大雪単独で実施とするのか、それによって寄附を求められる側の受け止め方も異なってくると思うがどうか。

●事務局

現時点では実行委員会設置の意見は出ていない。50周年記念事業検討ワーキンググループでは事業の検討や広報を行っており、大卒を平成26年度で作成し解散となる。その後既存の係組織に移行し準備を進める形となっている。

□委員

市町村などの状況を見てきた中で、大雪独自の実施形態に対して寄附は難しいと思う。実行委員会形式の方が市町村なども寄附を捻出しやすいと思う。

□委員

事務局を大雪とし、実行委員会メンバーへ教育長会や市町村を加えたほうが寄附を行うにしても市町村にあっては税金を使用するので説明責任や寄附の目的が明確となるので良いと思う。

□委員

寄附の目的も施設のための建物（ハード面）ではなく、定住自立圏のような形で皆さんが協力して子どもたちのための寄附（ソフト面）のほうが集いやすいと思うので再度方向制を検討していただきたい。

□委員

優秀な非常勤職員の人材の任用について資料6をみるとボランティア登録者が30名ほどいるようだが、このボランティアは「ねらいのあるボランティア要員なのか」、「ただ単にボランティア要員を募っているのか」どちらか。

●事務局

現在は、大学生等が中心で、教育事業等における運営補助などを担っている。大雪が求めている「地域成人ボランティア」のイメージとしては、例えば自然観察などの研修プログラムを利用団体が希望する場合に、交流の家の職員に指導できる者がいない場合などに、その分野に精通した方が、生き甲斐をもってボランティアをしていただけるという形。交流の家と地域相互が活性化されるようなものを考えている。

○部会長代理

最初に人材がいて実施するのではなく、大雪の地の利を生かした人材発掘ということで良いか。

□委員

こんな人材が来てほしいという募集は現在行っているのか。

●事務局

現在は募集を行っていがボランティア養成事業は行っている。

□委員

登山などする場合の子どもたちの保険は個人負担なのか。

●事務局

参加者負担となっている。

○部会長代理

他に意見等がなければ、いただいた意見等を基に事務局において今年度のアクションプランのたたき台を作成し、次回部会で提示したいと考えている。

必要に応じてメール等によりお示ししたいと考えておりますのでその際は御確認願います。

<議題2：終了>

<議題3>平成26年度の自己点検評価項目

○部会長代理（資料14により説明）

今年度の管理運営部会に係る目標と評価項目たたき台を作成した。

今年の試行実施2年目を終えた時点で本項目に沿ってみなさんに採点いただくことになる。

本件は次回部会において成案を示し、決定したいと考えていますので、御意見等がありましたらこの場で又は後日電話又はメール等をお願いしたい。

□委員

質問・意見なし。<議題3：終了>

<その他>次回委員会の開催予定について

●事務局

次回管理運営部会については、7月初旬を予定しており7月3日（木）又は7月7日の週で考えている。後日照会させていただく。

場所は美瑛町図書館又は富良野（富良野演劇工房）での開催も考えている。

○部会長代理

以上で、平成26年度の第1回管理運営部会を終了させていただく。

会議終了

閉会